

主婦の嗜好飲料（第4報）

——冬夏における摂取状態の差異——

山 岸 恵 美 子*

I 緒 言

筆者は、昭和37年の冬期と夏期に、飯山・長野・東京地方の主婦を対象として、嗜好飲料の摂取状態について調査を行ない、地方差の有無を検討して、その結果を冬夏別々に短大紀要へ発表した。^{1) 2)}

今回は、この調査結果にもとづき、3地方の主婦の嗜好飲料の摂取状態が、冬期と夏期とで差異を示すかどうかを検討してみたので報告する。

II 結果とその考察

3地方における冬夏の傾向分布の検討は、有意水準5%の χ^2 検定で、地方ごとの冬夏の量の平均値の比較は、t検定で行なった。また、喫茶量への氣候、地方による影響度の検定は、分散分析法により判定した。なお、冬夏の差の検定に使用した表は、第2、第3報で発表したものと重複するので省略した。

すでに第3報で報告したとおり、被対象者の年齢分布ならびに家の職業構成は、3地方共、冬夏の傾向差が認められなかった。

(1) 主婦が1番飲んでいる飲料について

主婦の摂取飲料は図1に示すとおり、地方ごとに特徴ある形が見られた。すなわち、飯山地方は、冬夏共緑茶の飲用が非常に多いため、その形は細長く伸びた三角形を示していた。東京地方は、緑茶の飲用が57%で飯山・長野地方より少なく、その上コーヒー（ココア）・紅茶・ジュース・牛乳の飲用が他地方より多いため、その形は正三角形に近づいていた。長野地方の形は、飯山・東京地方の中間であった。そして、各地方共、冬期と夏期の形は類似しているが、摂取飲料の種類は季節により異なり、その傾向分布は冬夏の間有意差が認められた。

各飲料についてみると、緑茶は3地方共冬夏にかかわらず飲料中で1番飲んでいたが、コーヒー（ココア）・紅茶・清涼乳酸飲料などの飲料には差が見られた。常識どおり、コーヒー（ココア）・紅茶などの暖かい飲料は各地共冬期に多く、清涼乳酸飲料などの冷飲料は逆であった。しかし、飯山地方のコーヒー（ココア）・紅茶をのむ割合は、冬夏の間で差がなかった。緑茶をのむ割合は、夏期よりも外出の機会の少ない冬期の方が20~30%増していた。緑茶が季節を問わず1番飲んでいるのは、すでに記したとおり、他の飲料に比較して安価であることと、淡泊な味を好む日本人の嗜好によるものと思われる。牛乳を飲む割合は、飯山・東京地方では夏期の方が2倍になっていたが、長野地方では冬期の方がやや増していた。

(2) 喫茶について

茶は冬夏に関係なく、大部分の主婦が毎日飲用していたが、その傾向分布は長野地方にだけ有意差が認められた。

* 生活科学第二 助手

茶の種類：喫茶に使用している茶は、3地方共冬夏の間で傾向差が見られず、茶の嗜好は季節に左右されるものではないことが認められた。

冬夏共、飯山・長野地方は煎茶と番茶を大部分使用していた。東京地方は飯山・長野地方に比較して、番茶が少なく紅茶が多くなっていた。

1日の喫茶量：喫茶量の季節による差異は当然見られると予想されたが、t検定によって検定すると、5%の危険率で、3地方共有意な差が見られなかった。（飯山地方 $t_0=0.02$ 、長野地方 $t_0=1.94$ 、東京地方 $t_0=1.28$ 、 $t_{0.05}=1.96$ で $t_0 < t_{0.05}$ ）10%の危険率にゆめると、長野地方のみが $t_0=1.94 > t_{0.1}=1.65$ となり、有意となった。しかし、各地方ごとの冬夏の喫茶量の傾向分布は、東京地方においては有意差がなかったが、飯山・長野地方では認められた。

つぎに、1日の平均喫茶量が、気候、地方の差異により変化されているかどうかを、分散分析法によって検討してみた。結果は表2のとおりで、1日の平均喫茶量については、気候、地方の影響が考えられなかった。

1日に茶をのむ回数：回数の分布状態は、飯山・長野地方では冬夏の間で有意な傾向差が見られなかったが、東京地方では夏期になると回数の少ない人が多く見えて、差が見られた。

そこでこの平均回数に、気候、地方の影響が考えられるかどうかを、分散分析法によって調べてみた。結果は表3のとおりで、茶を飲む回数の平均は、気候、地方に影響されていないことが分かった。このことから、茶は季節に関係なく、独立に一定の回数をもって飲んでいるといえる。

1回の杯数：茶を飲む機会ごとに何杯要求し、その要求杯数は気候、地方の影響で変化されているかどうかを、分散分析法で吟味してみると表4のとおりである。この結果、1回に飲む茶の杯数は、1日の喫茶量、喫茶回数とは反対に、気候、地方の差異に影響されていることが認められた。しかし、杯数の差異は、すでに記したとおり、1日の喫茶量の差異までは影響を及ぼし得なかった。

なお、杯数の地方ごとによる冬夏の傾向分布は、3地方共有意差は見られなかった。

茶を飲む理由：理由の傾向分布は、積雪期間が1番長い飯山地方にだけ有意差が見られた。

これを理由別にみると、“習慣”は3地方共冬夏にかかわらず理由中で1番多く、全体の2～3割を占めていた。“親睦”は長野地方では冬夏共18%で、“のどが乾く”について見られたが、飯山地方では異なっていた。すなわち、冬期は“習慣”について見られたが、夏期は“のどが乾く”の方が多かった。東京地方では“習慣”について冬夏共“おいしい”“のどが乾く”の順であった。“おいしい”は飯山・長野地方に比較して、東京地方の方が冬夏共10%以上多くなっていた。

茶を飲む時の付合わせ：喫茶時に出す食物の傾向分布は、飯山地方にだけ有意差が認められた。各付合わせについて見ると、飯山地方においては果物が夏期になると1.6倍にも増していた。しかし、長野・東京地方では大差なかった。冬夏共通に沢山出している食物は、飯山・長野地方では漬物・駄菓子、東京地方では駄菓子・生菓子であった。生菓子を出す割合は、各地方共夏期の方が減少していた。

(3) 茶以外に毎日飲んでいる飲料について

茶以外に毎日一定の飲料を飲んでいる主婦は、冬期13～53%、夏期39～49%で、夏期の方が地方差は見られなかった。冬夏共、飯山地方の主婦が1番飲んでいなかった。

飲料の種類：飲んでいる飲料は図2に示すとおり、3地方共冬期と夏期では形が全く異なっており、

傾向差は3地方共認められた。しかし、3地方における形は1番飲んでいる飲料のように地方ごとの特徴を持たず、各地共よく類似していた。

3地方共、冬期は牛乳とコーヒー（ココア）の飲用者が多く、両飲料を合わせると74～89%の高率であった。夏期はコーヒー（ココア）のかわりにジュースが飲用され、牛乳とジュースで79～94%になっていた。牛乳を飲む割合は、各地方共冬期の方が多かった。

飲む理由：茶以外の飲料を飲む理由は、冬夏によらず各地方共、茶を飲む理由とは異なっていた。すなわち、栄養上飲んでいる人が飲用者の半数以上を占め、すでに記したとおり牛乳は80%がこの理由であった。つぎに多い理由が、3地方共冬夏にかかわらず“おいしい”で、コーヒー（ココア）、ジュースの飲用者が示していた。長野地方では“おいしい”が夏期は冬の2倍になり、理由の傾向分布は長野地方にだけ有意差が見られた。その他、3地方共、夏期には“のどが乾く”が1～2割見られたが、冬期では全く見られなかった。

(4) 来客時に出す飲料について

飲料の種類：図3に示すとおり、来客時に出す飲料は地方ごとに異なっていた。すなわち、日常飲んでいる飲料と同様に冬夏共、飯山地方は左右に細長い三角形、東京地方は正三角形に近い形、また、長野地方は両地方の中間の形をしていた。そして、3地方共、冬夏の傾向分布には有意差が認められた。

これを飲料別に見ると、日常多く飲んでいる緑茶は、各地方共、冬夏によらず来客時にも1番出していたが、その割合は夏期になると減少し、それに代るものとして清涼乳酸飲料の増加が見られた。コーヒー（ココア）・紅茶などの暖かい飲料は、各地共、冬期は緑茶について出していたが、これも夏期になると冷たい清涼乳酸飲料にかわっていた。

(5) 付合わせ：喫茶の場合と同様に、付合わせの傾向分布は、飯山地方にだけ冬夏の間で有意差が見られた。冬夏共通に多く出している食物は、飯山地方は駄菓子と漬物、長野地方は生菓子和漬物、東京地方は生菓子和駄菓子であった。東京地方は、夏期になると駄菓子より果物を出す割合が増していた。一般に、果物は夏期に多く出し、煮物はその反対であった。煮物は飯山地方において特に冬夏の差が見られた。すなわち、冬期に17%出していたものが夏期になると6%に減っていた。これが飯山地方の付合わせの傾向分布に差をつけたものと思われる。漬物は各地方共、冬夏の間で殆ど差が見られなかった。

(5) 飲みたい飲料について

解答率は冬夏共半数を僅かに上回っていた。

飲料の種類：希望飲料は図4に示すとおりで、各地方共、日常、来客時に飲んでいる飲料の場合よりも中心にまとまった形をしていた。そしてその形には地方ごとの特徴が見られた。すなわち、飯山地方は冬期には牛乳の方向に伸びた三角形、夏期にはジュースが増して四角形をしていた。長野・東京地方は、冬夏共緑茶の方向に伸びた三角形をしていた。冬夏の傾向分布は東京地方にだけ有意差が認められず、東京地方の主婦の飲料に対する嗜好は、季節に左右されていないことが認められた。

各飲料についてみると、先に記したごとく長野・東京地方は緑茶・番茶の希望者が1番多く、冬期42%および48%、夏期38%および34%であったが、飯山地方は冬期には緑茶よりも牛乳・コーヒー（ココア）、夏期には清涼乳酸飲料を多く希望した。3地方共緑茶の希望は冬期の方が増していた。緑茶について、長野地方は冬期には牛乳、夏期には清涼乳酸飲料を希望したが、東京地方は冬夏共コーヒー（コ

コア)であった。

飲みたい理由：理由の傾向分布は、3地方共冬夏の間で有意差が見られなかった。すなわち、冬夏にかかわらず3地方共“栄養”“おいしい”が主な理由で、両者合わせると71~81%の高率であった。東京地方は冬夏共、“栄養”より“おいしい”の方が多かった。飯山・長野地方は、冬期は“栄養”と“おいしい”が同程度であったが、夏期は“栄養”より“おいしい”の方が増していた。

Ⅳ 総 括

飯山・長野・東京地方の主婦の嗜好飲料の摂取状態が、冬夏の間で差異を示すかどうかを検討した結果を要約すれば、つぎのとおりになる。

(1) 冬夏にかかわらず主婦が1番のんでいる飲料は、3地方共緑茶であった。そして一般に、コーヒー(ココア)・紅茶は冬期に多くのまれ、清涼乳酸飲料は逆であった。飲料の傾向差は3地方共冬夏の間で認められた。

(2) 1日の喫茶量の傾向分布は、飯山・長野地方では有意差が見られたが、喫茶量の平均値は5%の危険率で差がなかった。しかし東京地方では、傾向分布、平均値共有意差が見られなかった。また、3地方共1日の喫茶量には、気候、地方の影響がなかった。

(3) 喫茶の理由は、冬夏にかかわらず各地方共“習慣”が1番多く、ついで“おいしい”あるいは“のどが乾く”であった。理由の傾向差は飯山地方にだけ認められた。

(4) 喫茶時に多く出している付合わせは、冬夏共、飯山・長野地方は漬物・駄菓子、東京地方は駄菓子・生菓子であった。傾向差は飯山地方にだけ見られた。

(5) 茶以外に毎日飲んでいる飲料は、3地方共冬期は牛乳・コーヒー(ココア)、夏期は牛乳・ジュースで、傾向差は各地で認められた。

飲む理由は、冬夏によらず“栄養”“おいしい”の順で、傾向差は長野地方にだけ見られた。

(6) 来客時に1番用いられる飲料は、冬夏によらず各地方共緑茶であり、ついで冬期はコーヒー(ココア)・紅茶、夏期は清涼乳酸飲料になっていた。飲料の傾向差は3地方共認められた。

この時の付合わせは、3地方共夏期になると果物が増加して煮物が減少していた。

(7) 飲みたい飲料は、冬夏共、長野・東京地方は緑茶であったが、飯山地方は冬期には牛乳・コーヒー(ココア)、夏期には清涼乳酸飲料であった。希望飲料の傾向差は東京地方においては見られなかった。

希望する理由は、冬夏にかかわらず3地方共“栄養”“おいしい”が主で、傾向差は認められなかった。

文 献

- 1) 山岸：長野短紀 17 47 (1962)
- 2) 山岸：長野短紀 18 29 (1963)
- 3) 岩田：食品学 養賢堂 (1960)
- 4) 社会栄養学研究グループ：嗜好調査 (1962)

5) 高橋, 赤羽: 栄養調査のやり方まとめ方 第一出版 (1960)

6) 寺田: 推測統計法 朝倉書店 (1951)

以下の図1~4に使用してある記号の内容はつぎのとおりである。

——: 冬

-----: 夏

A: 緑茶・番茶

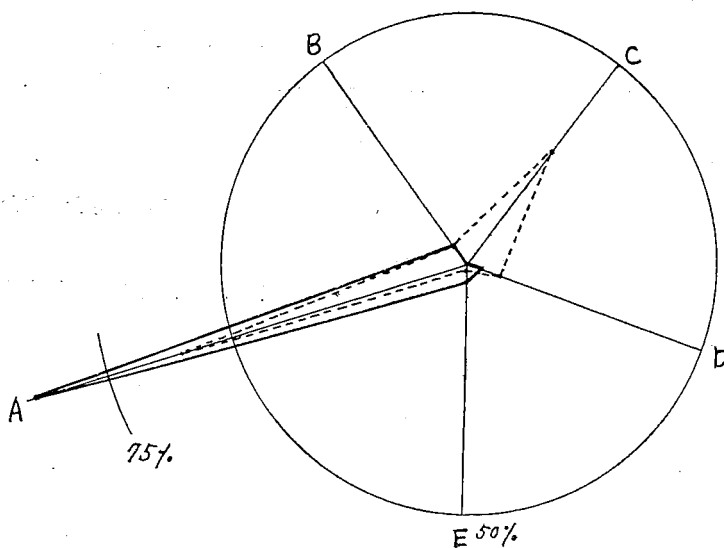
B: コーヒー(ココア)・紅茶

C: 清涼乳酸飲料

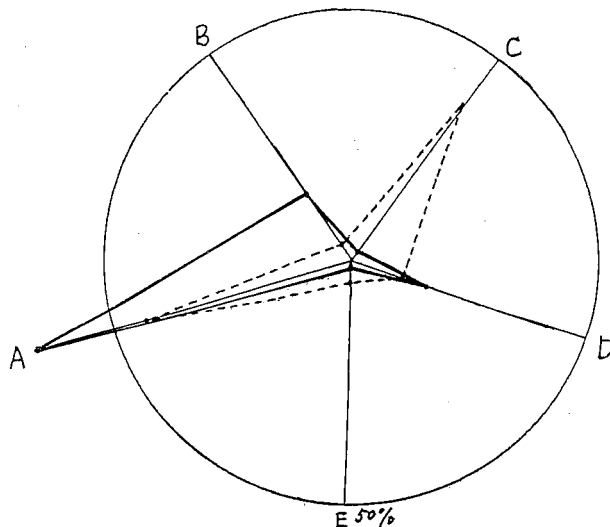
D: 牛乳

E: その他

図1 日常多く飲んでいる飲料
飯山地方



長野地方



東京地方

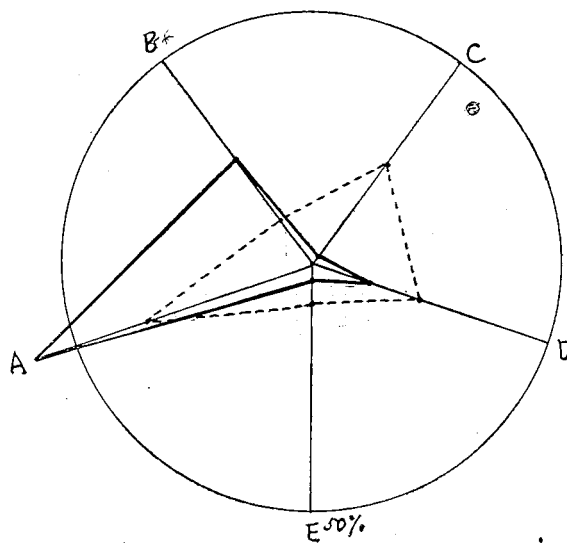
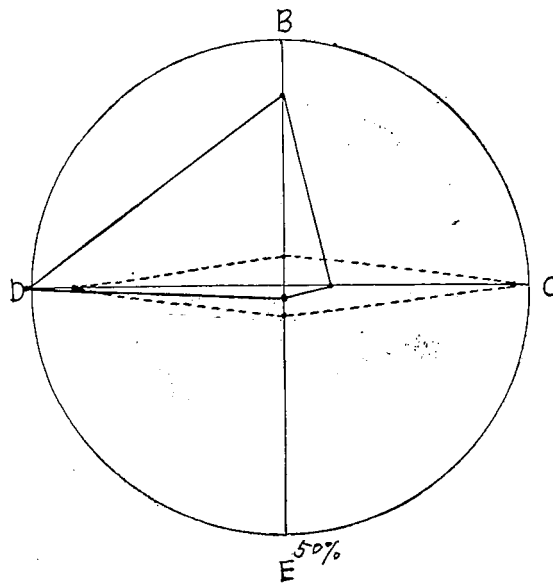
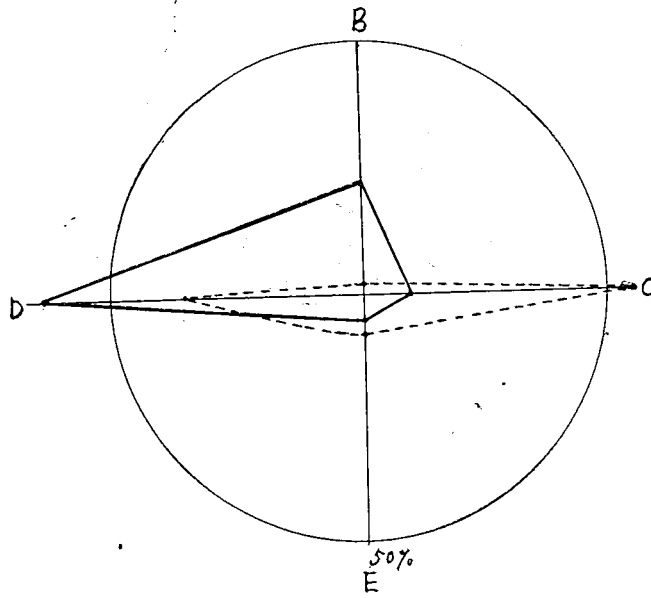


図2 茶以外に毎日飲んでいる飲料
飯山地方



長野地方



東京地方

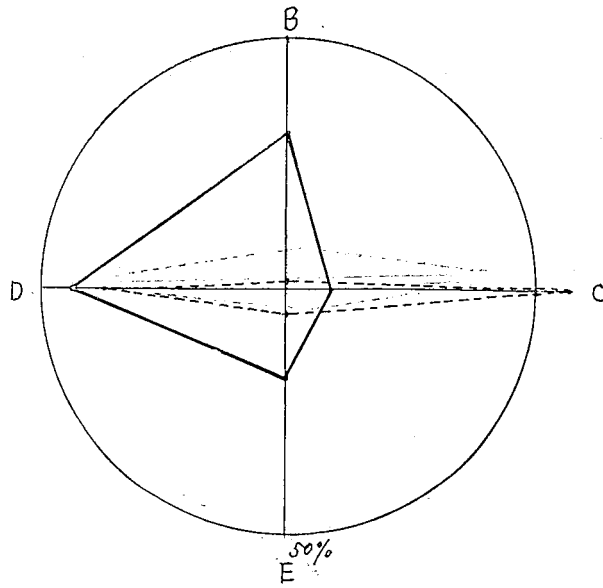
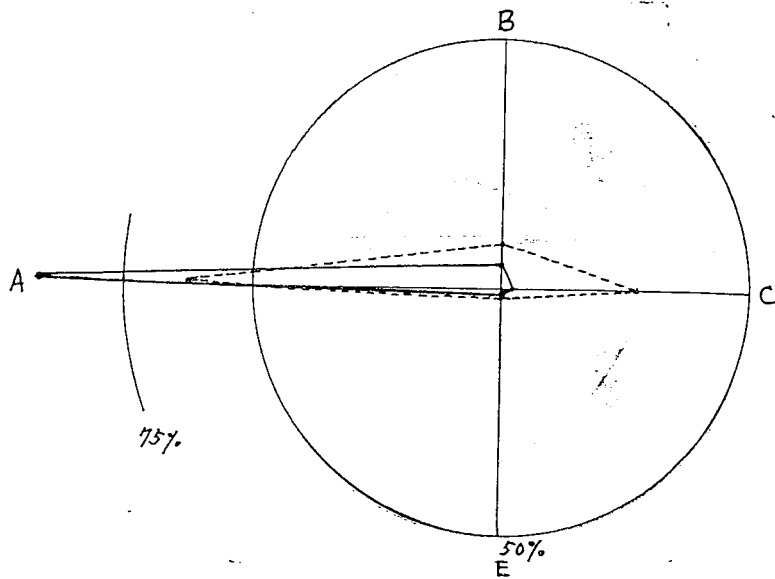
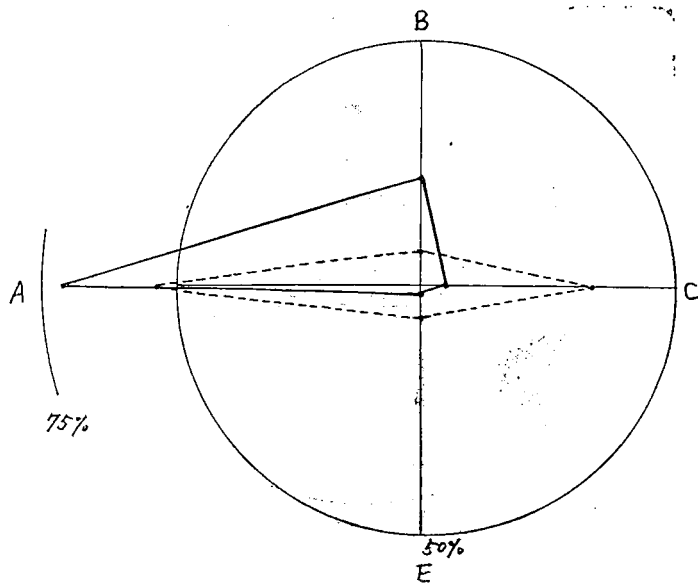


図3 来客時に出す飲料
飯山地方



長野地方



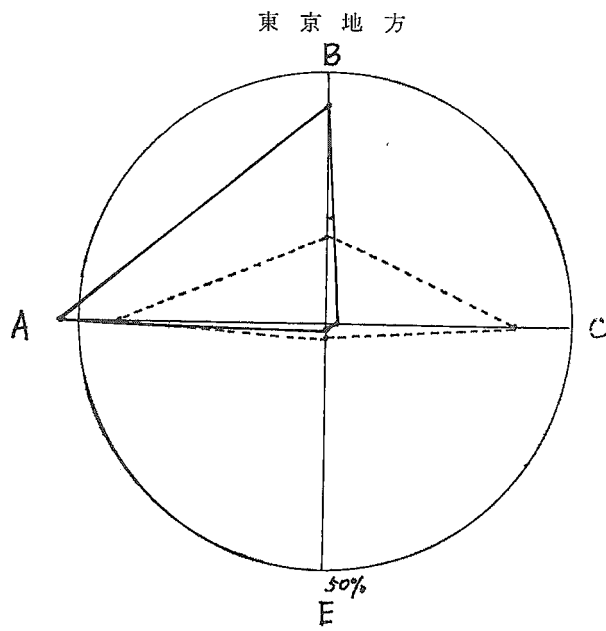
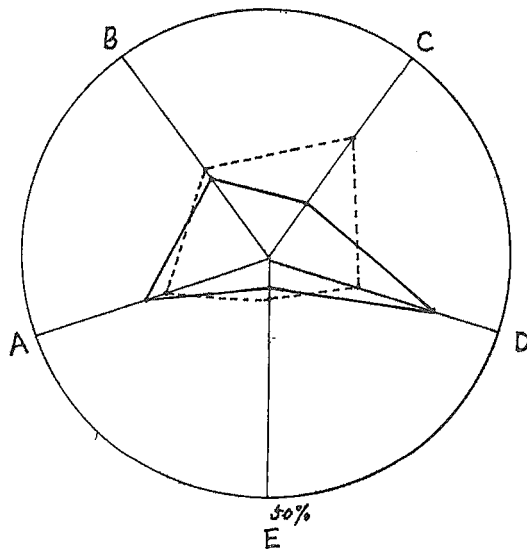
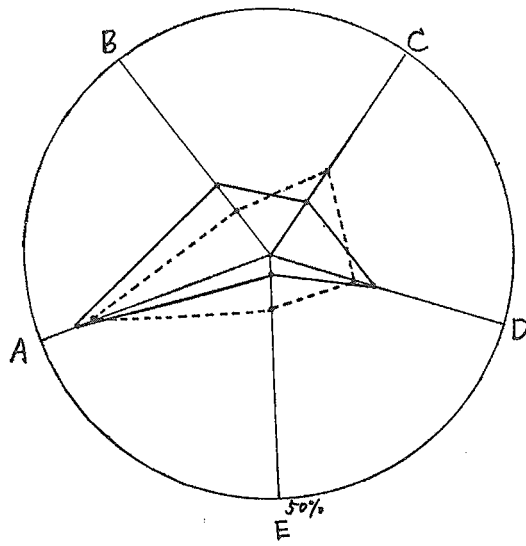


図4 飲みたい飲料
飯山地方



長野地方



東京地方

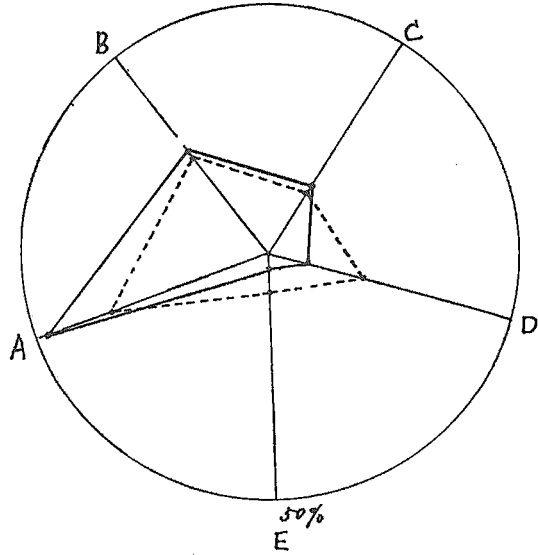


表1 χ^2 検定 (冬夏の傾向分布の比較)

		地 方 名	自 由 度	χ^2	$\chi^2(0.05)$	有 の 意 有 無	差 無
1 番多く飲んでいる飲料		飯 長 東	山 野 京	3 3 4	53.79 117.09 56.43	7.81 7.81 9.49	有 有 有 意 意 意
喫茶について	毎日飲んでいるか	飯 長 東	山 野 京	2 1 1	4.09 4.20 2.01	5.99 3.84 3.84	な 有 有 し 意 し
	茶の種類	飯 長 東	山 野 京	4 4 5	0.90 4.01 8.18	9.49 9.49 11.07	な な な し し し
	1 日の飲量	飯 長 東	山 野 京	5 4 4	13.00 13.59 4.29	11.07 9.49 9.49	有 有 有 意 し
	1 日に飲む回数	飯 長 東	山 野 京	2 2 2	1.06 2.17 6.81	5.99 5.99 5.99	な な 有 し し 意
	1 回の杯数	飯 長 東	山 野 京	2 2 2	3.50 4.39 2.62	5.99 5.99 5.99	な な な し し し
	飲む理由	飯 長 東	山 野 京	5 5 5	32.27 3.70 10.88	11.07 11.07 11.07	有 な な 意 し し
	付合わせ	飯 長 東	山 野 京	4 4 4	12.88 1.31 7.27	9.49 9.49 9.49	有 な な 意 し し
茶以外に毎日飲ん でいる飲料	飲料の種類	飯 長 東	山 野 京	2 2 2	10.17 33.01 21.41	5.99 5.99 5.99	有 有 有 意 意 意
	飲む理由	飯 長 東	山 野 京	2 2 2	0.88 9.58 4.90	5.99 5.99 5.99	な 有 有 し 意 し
来客時に出す飲料	飲料の種類	飯 長 東	山 野 京	3 4 3	50.00 81.89 61.54	7.81 9.49 7.81	有 有 有 意 意 意
	付合わせ	飯 長 東	山 野 京	4 4 4	38.04 4.27 7.07	9.49 9.49 9.49	有 な な 意 し し
飲みたい飲料	飲料の種類	飯 長 東	山 野 京	5 4 3	13.13 11.11 3.52	11.07 9.49 7.81	有 有 有 意 し
	飲みたい理由	飯 長 東	山 野 京	3 3 3	7.76 2.48 0.46	7.81 7.81 7.81	な な な し し し

表2 分散分析表（1日の喫茶量）

要 因	平方和	自 由 度	平均平方	F_0	判 定
S _気 気 候 の 影 響	5642	1	5642	$4.12 < F_{1,2}(0.05) = 18.5$	有意差なし
S _地 地方の差異による影響	21410	2	10705	$7.82 < F_{2,2}(0.05) = 19.0$	有意差なし
S _残 誤 差 量	2737	2	1368		
S 全 変 動	29789				

表3 分散分析表（1日に飲む茶の回数）

要 因	平方和	自 由 度	平均平方	F_0	判 定
S _気 気 候 の 影 響	0.11	1	0.11	1.37	有意差なし
S _地 地方の差異による影響	0.97	2	0.49	6.12	有意差なし
S _残 誤 差 量	0.16	2	0.08		
S 全 変 動	1.24				

表4 分散分析表（1回の茶の杯数）

要 因	平方和	自 由 度	平均平方	F_0	判 定
S _気 気 候 の 影 響	0.14	1	0.14	28	有 意
S _地 地方の差異による影響	1.62	2	0.81	162	有 意
S _残 誤 差 量	0.01	2	0.005		
S 全 変 動					